

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

☆最初のISS構成要素打上げから2216日経過しました

☆第10次長期滞在クルーのISS滞在は60日経過しました

☆ISS動向

第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオとサリザン・シャリポフ両宇宙飛行士は、宇宙滞在中の循環器系に関する試験を行うロシアの実験に参加しました。

また、チャオ宇宙飛行士は実験装置が設置される予定の能動式ラック制振システム(ARIS)の点検を実施しました。ARISはISSの振動による影響から実験装置を保護するためのシステムです。科学実験としてチャオ宇宙飛行士は、二元コロイド合金実験(BCAT)のための撮影を行いました。BCATとは、液体中に浮遊している粒子の微小重力環境下での長期挙動を観察する実験です。

メンテナンス作業としてふたりは、ロシアモジュール内にケーブルを敷設したり、米国製宇宙服のバッテリ充放電を行ったりしました。また、火災避難訓練も行いました。

地上では、水、食料、推進剤などを搭載した無人のプログレス補給船(16P)の打上げ準備が進められています。16Pは、2004年12月24日午前7時19分にカザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、12月26日午前9時05分にISSとドッキングする予定です。



BCATの実験を行うチャオ宇宙飛行士

“スペースシャトル飛行再開に向けて”

☆スペースシャトル・ディスカバリー号にメインエンジン取り付け完了

NASAは、米国時間12月8日にケネディ宇宙センターのオービタ整備施設(Orbiter Processing Facility: OPF)にてスペースシャトル・ディスカバリー号のメインエンジン3基の取り付けを完了しました。

今回取り付けられたエンジンは、No.2054、2056、2057の3基であり、No.2054は5回目の使用、No.2056は3回目の使用、No.2057は初飛行となります。

スペースシャトルのメインエンジンの重量は約3.2トンで、世界で唯一の再使用可能な液体ロケットエンジンです。



ディスカバリー号が設置されている
OPFに搬入される第3メインエンジン



リフトで取付位置まで慎重に運ばれ
る第3メインエンジン



第3メインエンジン取り付け



3基のスペースシャトルメインエンジン
(SSME)が取り付けられた状態

“インフォメーション”

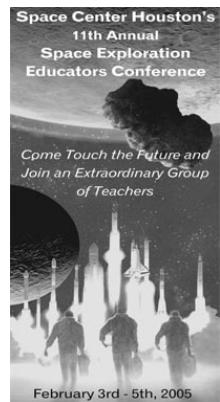
☆「宇宙を教育に利用するためのワークショップ」参加者募集

JAXAでは、2005年2月3日(木)～5日(土)にアメリカ・ヒューストンにて開催される「宇宙を教育に利用するためのワークショップ」(SEEC: Space Exploration Educators Conference)に参加する方を募集しています。

SEECとは教育者等を対象とし、宇宙開発を題材とした指導方法・事例について研修・意見交換及び情報提供するものです。また、宇宙開発の教育利用が活発な米国の教育者と交流することによって、新たな視点の発見、及び参加者間のネットワークの拡大も図ることができます。

応募資格

- ・教育に携わる小学校、中学校、高等学校の生徒を受け持つ教員の方(担当科目は問いません)、科学館・博物館並びに教育センターの研究員の方。
- ・全日程参加できること。
- ・英語でコミュニケーションがされること(ワークショップは全て英語で行われます)。
- ・ワークショップ参加による経験等を授業等に活用していただける方。



募集人数：2～3名 費用：渡航費、現地宿泊費、ワークショップ参加費はJAXA負担

募集締め切り：2004年12月27日(月)まで

詳細は以下をご覧下さい。 <http://iss.sfo.jaxa.jp/education/seec/index.html>

問い合わせ先：宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

Wi-Fiクリーニュースマーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼう Wi-Fiクリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本Wi-Fiクリーニュースから転載した旨を記述ください。